平成23年 3月31日

財団法人　笹川記念保健協力財団
理事長　紀伊國　　献三　殿

施設名

札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号
医療法人　東札幌病院
代表者　　理事長　石谷邦彦　印

平成２２年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１　研究・研修事業　　平成２２年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業

２　期　　間　　平成２２年　４月　１日　～　平成２３年　３月３１日

３　報　告　書　　Ⅰ　事業の目的・方法

Ⅱ　内容・実施経過

Ⅲ　成果
（上記Ⅰ～ⅢをＡ４縦判・横書 6,000字程度にまとめる）

Ⅳ　収支報告
①助成金の主な使途（人件費以外は領収書等の証憑書類を添付）
②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
（貴機関の全会計決算書でなく、当該助成計上部分のみで可）
＊決算期の関係で平成23年3月18日（金）までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
（提出予定日：平成２３年　　月　　日）

Ⅴ　添付書類
当該施設の研修カリキュラム（パンフレットでも可）

医療法人東札幌病院

平成22年度　緩和ケアナース養成研修

2011年4月30日

Ⅰ　研修の目的・目標

1．研修目的

ホスピス緩和ケアに携わる質の高い専門ナースを育成する。

2．研修目標

1）がんを発症してから現在にいたるまでに受けた医療のプロセスについて、患者・家族の話をよく聴き理解することができる。

2）がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状緩和ができる。

3）インフォームドコンセントのガイドラインを理解し、実践することができる。

4）セデーションのガイドラインを理解し、実践することができる。

5）患者・家族の喪失・予期悲嘆に伴う精神的支援ができる。

6）臨床倫理検討シートを活用し、合意を目指したコミュニケーションが実践できる。

7）緩和ケアにおけるチーム医療を実践する。

8）遺族ケアの必要性とケアを理解し、実践できる。

3．研修方法

1）緩和ケアの基盤となる知識の理解と適用

2）的確なアセスメントに基づく問題の明確化

3）アセスメントに基づく効果的、計画的なケアの実施

4）評価

1）～4）のプロセスを基盤とする演習や実習（事例検討・まとめ・発表）を主なものとする。

臨床実践能力を、チーム医療における他の専門職者との連携や協働を通して獲得できるよう、カンファレンスや事例検討の場で主体的に学習する機会をつくる。

4．研修生　１１名

期　間	研修生	研修場所
6月7日～25日	大山由加利（茨城県日立総合病院） 川俣　玲子（新潟県下越病院）	西棟ＰＣＵ
7月5日～23日	高橋　明杏（栃木県上都賀総合病院） 廣松　美樹（東京医科大学病院）	西棟ＰＣＵ
9月6日～24日	末木　香織（ＮＴＴ東日本関東病院） 館野亜紀子（札幌厚生病院）	東棟ＰＣＵ
11月1日～19日	石崎　将人（福井県済生会病院） 糊谷　博子（和歌山県立医科大学病院）	西棟ＰＣＵ
12月6日～24日	森川　美佳（大阪府彩都友紘病院） 鳴海麻希子（青森県黒石市国民健保病院）	東棟ＰＣＵ
2月28日～3月18日	田中　真樹（京都府あそかビハーラクリニック）	東棟ＰＣＵ

5．講義内容

1）がんの進行に伴う緩和ケア

・ 緩和医療・緩和ケア
・ 症状マネジメントとケア
・ がん性疼痛のメカニズムと疼痛アセスメント、ケア
・ 患者・家族の危機状況のアセスメントと支援
・ 臨床倫理の実際

2）チーム医療における援助

・ スピリチュアルケア
・ 患者・家族・遺族への心理社会的支援の実際
・ チーム医療とソーシャルワーカーの役割
・ 在宅緩和ケア
・ ボランティア活動

6．研修内容

1）研修課題

・研修生は自己課題にそって研修を行います。
・患者さんを受け持ち、看護過程を展開します。

2）研修場所

・緩和ケア病棟（西棟・東棟）
・訪問看護ステーション東札幌

3）研修方法

① 受け持ち患者さんは研修生が選択し、担当者と相談の上、決定します。
② 受け持ち患者には、所定の同意書を用いて受け持つことを説明し、同意の上研修を開始します。
③ 研修生は、毎朝研修開始前にその日の研修内容を担当者と調整をします。
④ 与薬などの医療行為の実施に関しては、担当者とともに実施します。
⑤ 病棟カンファレンスに参加し、チームの一員として情報交換・情報共有します。
⑥ 研修生は実施したケアの結果を担当者に報告してください。
⑦ 個人情報に関する守秘義務を徹底します。

4）研修スケジュール

【1週目】 ・緩和ケア病棟オリエンテーション（青田美穂課長・佐藤郁恵）
・看護師と共に、ケアに入り、緩和ケアの実際をみる。
・院内研修参加
・専門看護委員会参加

【2週目】 ・疼痛ケア事例検討シートについて（認定看護師）
・スピリチャルケアについて（小西達也チャプレン）
・在宅緩和ケア：訪問看護ＳＴ東札幌経験（田村緑所長）

【3週目】 ・臨床倫理委員会の活動について（長谷川美栄子看護部長）
・チーム医療とソーシャルワーカーの役割（田村里子ＭＳＷ部長）
・ボランティア活動の理解（白石典子ボランティアコーディネーター）

＊その他

①1日目は、東札幌病院東棟正面玄関前に8時までに集合してください。
ロッカー室へご案内します。

②ユニホーム・名札・靴は、勤務でご使用のものを持参してください。
訪問看護ステーションの実習の服装として、上は襟付きシャツかポロシャツ・カーディガン、下は綿パンを用意してください。

③昼食は、職員食（1食300円）を頼むことができます。病院内に売店もありますので、購入可能です。1日目に確認します。

④宿泊施設は、別紙で確認してください。ご不明な点は、お問い合わせください。

Ⅱ　内容・実習経過

3週間のスケジュールに沿って、研修生の学びを進めていきました。西棟ＰＣＵ28床、東棟ＰＣＵ30床と病棟が2ヶ所であるため、看護課長・スタッフで研修生の情報共有をして、かかわらせて頂きました。

初日のオリエンテーションで研修生の課題を確認し、研修生の実習への要望を取り入れるように調整しました。今年度は、両ＰＣＵの病棟医長・病棟課長・MSW・外来看護課長・入院調整担当者で行う「入棟判定会議」に参加して頂き、入院患者の情報共有と待機患者さんの確認をしました。患者さん・ご家族が緩和ケアに期待している状況を知る機会になったと思います。

また、ボランティアさんの活動が患者さん・ご家族のＱＯＬ向上になっていることを学んで頂きました。ボランティア活動を実体験したいとの研修生からのご希望もあり、ボランティアコーディネーターのお話と実際にボランティア活動を経験しました。研修生は、患者さん・ご家族に近い立場でふれ合う機会になったと思います。

研修生は、緩和ケア病棟が考えていたより明るく活気があると感じ、「一般病棟においても、患者さんが苦痛なくその人らしく最期まで生きられるようなかかわりを考える機会になった。自分の施設にもどってからどうすればいいのか、気づくことができた」、「患者さんの思い・患者さんの変化に揺らぐ家族の思いに気づき、安心して入院生活が過ごせるように、チームでかかわっていくことの大事さと実感した」、「スタッフ間、他職種間で話しやすい雰囲気、相談しやすい雰囲気がある」、とレポートしてくださいました。患者さん、ご家族の思いをどのような理解しチームで情報を共有していくのか、また症状緩和、コミュニケーションについて、ご自身の傾向・課題に気づく機会になっていました。

日々のカンファレンスでは、ケアの統一を図っていくこと、各専門家（医師・看護師・MSW・作業療法士・栄養士・ボランティア）がどのようにかかわることが求められているのかに気づく機会になり、チーム医療の重要性を理解して頂きました。

トータルペインの視点で1事例をまとめてカンファレンスで報告して頂きました。患者さんの症状緩和や患者さん・ご家族のお気持ちや希望に寄りそったケアについて学ぶ機会になっていました。私たちスタッフも研修生と共に、患者さん・ご家族との関係性を構築していくプロセスの重要性を学ぶことができました。

Ⅲ　実習成果

研修生からのアンケート結果では、実習課題は「ａ：十分達成」「ｂ：達成」でした。研修生が「ｃ：まあまあ」をつけている項目をみると、「家族から社会面の情報を十分とることができなかった、家族ケアが十分できなかった」「チームメンバーとのコミュニケーションが十分とれなかった」「看護倫理をもっと学ぶ必要があると思った」等でした。研修生は、３週間の実習を通して、自己の課題を強く意識したようです。

実習を受け入れる体制として、研修生のレディネスがあるとしても、実践へのヒント、自信へつながる機会を工夫していきたいと思いました。

全体的に、緩和ケアを実践する研修生ご自身の傾向や課題に気づき、ケアの提供者としてのあり方、ケアリングについて考える機会になっていました。またチーム医療についても、自施設全体の課題として取り組む必要性を感じていました。

研修生は、研修センターの講義で学んだことと当院での実習とのつながりを意識して、真摯に取り組んでいました。「生きること・最期を迎えるとは」「看護の基本・看護の原点」のテーマを持ち、自己研鑽し続けることへの思いを強くもったようです。

私たちスタッフは、研修生と共にケアを深めることができました。ありがとうございました。

（記　東札幌病院　副看護部長・教育担当　佐藤郁恵）